

2013年5月1日

各位

特定非営利活動法人アイセック・ジャパン

代表理事会長 各務 茂夫

海外研修プログラムの研修生の募集再開と 安全管理体制の強化について

目次

1. 研修生の募集再開について
2. これまでの安全管理体制強化の検討過程
3. 安全確保のためのプログラム変更内容

1. 研修生の募集再開について

昨夏、当団体が紹介する海外研修プログラムに参加した研修生が、現地到着後に犯罪に巻き込まれ、殺害されるという事件が発生しました。改めまして心よりお悔やみを申し上げます。

当団体では、本事件直後より、現地に理事・担当者を派遣する等の対応をするとともに、新規の研修生募集を凍結した上で、事件の再発防止に向けて従来の海外研修プログラムにおける安全管理体制を見直してまいりました。

今般、当該検討が完了し、安全管理体制の強化のための一定の体制が整ったため、本日より、海外研修プログラムの研修生募集を再開いたします。また、募集再開にあたっては、以下のとおり、さらなる安全確保のために、海外研修プログラムの内容等を変更します。

本件に関しまして、関係各所の皆様に多大なご心配をおかけしたことについて、重ねて深くお詫び申し上げます。当団体の海外研修プログラムの過程で、このような結果が発生してしまったことを重く受け止め、引き続き海外安全管理の面で弛まぬ努力を続けてまいりますので、今後とも当団体を何卒宜しく願います。

2. これまでの安全管理体制強化の検討過程

本事件発生後、当団体では、研修生の選考から契約、渡航準備、渡航、研修中、帰国までの各プロセスにおけるリスクを全面的に洗い出し、現地支部やアイセック国際本部から

収集した情報、海外への研修生の派遣活動を行う機関へのヒアリング結果等も踏まえながら、これらのリスクを最小化するための方策を検討して参りました。

また、当該検討の過程では、外部の有識者により構成される海外安全対策委員会を諮問機関として設置し、3度開催された委員会における助言を受けて、より強固な安全管理体制の構築に努めて参りました。その結果、第3回の安全対策委員会において、当団体の海外研修プログラムの安全管理体制が十分な水準に達した旨の確認をいただきました。

本事件以後の当団体の対応と上記検討過程の詳細については、下記のこれまでの当団体 Web サイトにおけるお知らせ及び海外安全対策委員会の報告書「アイセック・ジャパン 海外安全対策委員会 最終報告書（2013年4月30日付）」をご参照下さい。

【参照】

- (1) 「ルーマニアで発生した事件に対する当団体の対応と今後の取り組みについて」
(2012年10月16日)
<http://www.aiesec.jp/info/2012-10/5236.html>
- (2) 「第1回海外安全対策委員会の開催結果と今後の活動方針について」(2012年12月28日)
<http://www.aiesec.jp/info/2012-12/5303.html>
- (3) 「第2回・3回海外安全対策委員会の開催結果と今後の活動方針について」(2013年2月10日)
<http://www.aiesec.jp/info/2013-02/5359.html>
- (4) 海外安全対策委員会報告書「アイセック・ジャパン海外安全対策委員会 最終報告書」(2013年4月30日)
<http://www.aiesec.jp/info/2013-04/6192.html>

3. 安全確保のためのプログラム変更内容

海外研修プログラムにおける安全管理体制の強化のため、アイセック・ジャパン海外研修プログラム参加規約及び海外活動危機管理ガイドラインを改訂し、次の3点を中心として、下記のとおり海外研修プログラムの内容を変更します。詳細については、別紙「海外研修プログラムの変更内容と安全管理体制の強化内容の詳細について」をご参照下さい。

- (1) 研修生が研修国へ渡航した後の安全対策の強化
 - ・ 送迎に関するルールやサポート体制の見直し
 - ・ 緊急時に日本語で対応可能な窓口の設置
 - ・ 定期的な研修生の状況把握
- (2) 研修生が渡航する前の事前準備の強化

- ・ 研修生選考基準の変更
 - ・ 研修先決定前の世界各国・地域の送迎情報の提供
 - ・ 海外活動危機管理ガイドラインのさらなる充実
 - ・ 海外危機管理に関する講習会の実施
 - ・ 研修生の情報収集状況に関する確認の徹底
- (3) 当団体・アイセック国際本部の組織体制の強化
- ・ 危機管理等の専門家から助言を得られる体制の整備
 - ・ アイセック国際本部による制度変更

以上